

## 守られないルール 2 『空気圧点検条件』

トヨタの取扱説明書から

### 4-1. お手入れのしかた タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション(タイヤ位置交換)を5,000 kmごとに行ってください。

#### ■ タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。  
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧  
空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

ニッサンの取扱説明書から

#### ■ タイヤ空気圧の点検

- タイヤの空気圧は、走行前のタイヤが冷えているときに点検・調整してください。  
タイヤ接地部のたわみが大きいときは、空気圧が不足しています。すみやかに調整するか、日産販売会社にご相談ください。扁平タイヤの空気圧はたわみ状態ではわかりにくいので、タイヤエアゲージを使用し点検してください。
- タイヤ空気圧は自然に少しずつ低下します。月に一度はタイヤエアゲージを使用してタイヤ空気圧が適正であるか点検してください。
- タイヤ空気圧は走行に伴い約1割程度上がる場合があります。
- タイヤの空気圧は運転席ドア開口部に表示、及び巻末のサービスデータに記載してあります。

走行前の冷えている時（一般ユーザー）

- ・空気圧の点検・調整はガソリンスタンドです。
- ・冷える前に点検・調整をする。
- ・直射日光にあったタイヤも調整する。

問題

- ・走行して行く。増加分の補正もしない。
- ・冷えるのに2時間以上かかる。
- ・走行すると直るが条件から外れる。

結果だれも守っていない

## 1 回目の質問 『高気温時の空気圧調整が CO2 の排出増につながる』

1 日で 15℃もある気温差の大きい季節には 1 ヶ月間の空気圧低下に匹敵する 20kPa も変化する。

気温が高い時に空気圧を調整すると気温が下がるとゲージの精度以上空気圧が下がって燃費が悪くなって CO2 の排出量が増えるのではと質問。また、直射日光に当たったタイヤは最大 10kPa ゲージの精度（プロ用は 5kPa）以上の差がつくのでは直射日光に当たったタイヤは点検・調整は控えていけないのではないかと質問に対しての回答がこれだ。

ブリヂストン お客様相談室 Date: 2005 年 7 月 15 日 12:03:06:JST

岡田様のレポートを拝見させて頂きましたが、確かに気温、日射がタイヤの空気圧に影響を与えていると考えます。また、日本自動車タイヤ協会が奨めております「走行前の冷えている時」の定義は、気温の変化、日射の影響は表現されておりません。しかしながら、測定 / 点検の利便性を考え、かつ性能、耐久面に影響はない範囲と考えており、現在、業界として推奨しております点検方法で問題はないと判断しております。

CO2 の排出の影響についてまったく答えない。

科学的データはまったく示さない。

## 2 回目の質問 『走行前の冷えている時に空気圧を点検・調整』

ブリヂストン お客様相談室 Date: 2005 年 11 月 12 日

岡田様から再度お問合せ頂きました空気圧点検に関しましてご回答させていただきます。

「走行前の冷えている時」の解釈ですが、もちろん岡田様がおっしゃる通り、ご自分で空気圧点検ができないお客様の場合は、ガソリンスタンド等へ出向く必要があります。その場合は点検場所までの距離や走行の仕方にもよりますが、空気圧が変化することはございます。ただし、最寄りのガソリンスタンドに出向く程度であれば「走行前の冷えている時」と広義に解釈して実用上問題ないかと考えます。

厳密には岡田様が実験されたり、お考えになられていることは理解致しますが、前の回答でも申し上げました通り、現在、業界として推奨しております点検方法は、測定 / 点検の利便性を考え、かつ性能 / 耐久面に影響のない範囲の方法と考えております。何卒ご理解の程よろしくお願い致します。

最寄りとは、具体的な距離をしめさない。広義に解釈してとはなんだ妥協すのか。

利便性とは、ユーザーがいつでもどこでも出来るのが利便性が良いのでは。

岡田康博 様

2005.11.2

社団法人日本自動車タイヤ協会

技術環境部検査事故防担当 . . .

岡田様の 2005.7/8 付け FAX を拝見し、10/7 にお電話も頂戴しておりましたので、貴意見に対してご回答申し上げます。確かにご指摘の通り、空気圧は気温の影響で変化し、「走行前の冷えている時に空気圧を調整する」ことは、ユーザーの方々の点検・調整に関する環境が様々であることを配慮するならば、現実に即さない面もあるかもしれません。しかしながら、安全上影響はない範囲と考えますので、一般の方へアナウンスとしては、点検条件を明確にする上で、現在推奨している点検方法で問題ないと思っています。

現実に即さない面もあるかもしれません。とはなんだ、「走行前の冷えている時に空気圧を調整する」守るのか守らなくてもいいのかこの文書では私の頭では理解できません。

タイヤの空気圧調整方法（特許第 4413987 号）では

タイヤの空気圧は走行速度に比例する。

平均走行速度 50km/h=5%増、平均走行速度 80km/h=8%増、と補正して調整する。